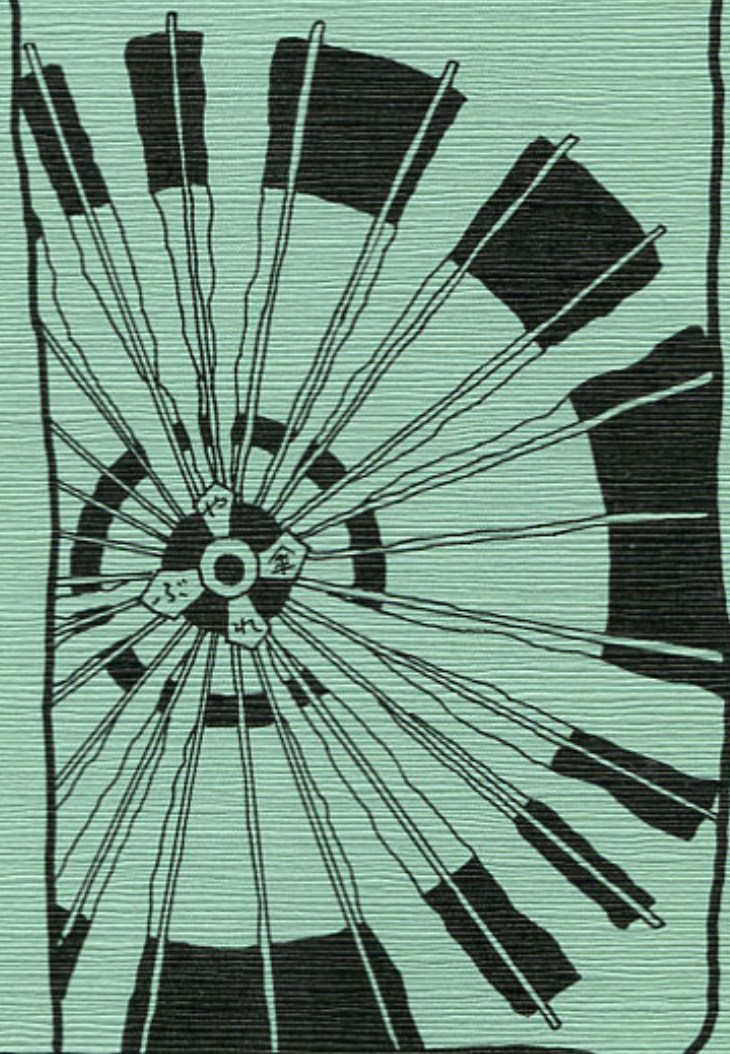


やぶれ傘



五十八号
二〇二二年二月

雲の無くいよいよ裸木となれり	根橋宏次
キヤタピラの跡のギザギザ小六月	大島英昭
ドラム缶から火の手が上がる焚火かな	きくちきみえ
みちのくは雪と聞く夜の菊脛	廣瀬雅男
廃船の甲板に草紅葉かな	瀬島酒望
庭の木の思はぬところ鴟の賛	白石正躬
川またぐ水道管や泡立草	丑久保勲
胸近く来て引返す雪ぼたる	秋葉貞子
霜柱つぶるる音を踏みにけり	藤井美晴
おほぜいの炬燵へ恐る恐る入る	安藤久美子
干菜湯は大根の葉のにほひかな	天野美登里
山の端に鳶の輪をかく安房の冬	國保八江
皿が皿打つ音きこえ秋の宿	渡邊孝彦
冬の月最終バスの固き椅子	久世孝雄
秋深し円空佛の傾ぎゐて	有賀昌子

抄 集 句 選 夫 紀 傘 大 崎 ぶ れ や

小春日や鯨干さるる安房の國	小池一司
カッポレを踊る集団神の留守	齋藤朋子
落葉掃くことより始むビル工事	高橋 均
魯田や細に父子の小鮒釣り	時田義勝
斑鳩の桜紅葉や通り雨	都丸スミ代
刑死者を弔ふ墓碑に冬の菊	中村則夫
小春日やはち切れさうな飛行船	橋本美代
足裏に木の葉の弾む日和かな	松村光典
新米の炊けしにほひの階下より	松本善一
朝市のざわめき近し冬の宿	湯本 実
銀杏落葉踏みて防犯パトロール	秋山信行
しなやかに冬日束ねて那智の滝	泉 一九
友の計を友に伝ふる日短	岩藤礼子
秋うらら子らの絵並ぶ商店街	岡田香緒里
花形の紙片貼られて白障子	小川 滋

海
鼠

大崎
紀夫

雲移る雲間の秋のあをもまた
行く秋の畑の道を田の道へ
鯊釣るや夕風のこゑ舟べりに
蜂の子の炒りしをつまむ夜の信濃
波の秀^ほの夕日散らせり秋土用

ねずみもちの実のもやもやと日に当たる
閻王の齒の欠けゐたる竜の玉
拳玉の穴に蠟塗る夜長かな
柿すだれ八ヶ^や岳^つに雲なき朝のきて
嵯峨野ゆく帽子に時雨きたりけり
山の端に星生まれけりなめこ汁
海鼠掌に重し沖まで晴れわたり

裸 木

根橋宏次

水 べ り に こ ぼ れ て 雀 蛤 に
 代 々 の 鍼 灸 院 や 青 木 の 実
 石 臼 の 放 ら れ て ゐ る 柿 落 葉
 飛 び 石 の 間 合 不 揃 ひ 藪 柑 子
 洗 は れ て ゐ る 大 根 に 日 の 斑 か な
 裏 庭 を 冬 菜 畑 に 漁 師 町
 柊 の 垣 根 に 冬 の 日 差 し か な
 雲 の 無 く い よ い よ 裸 木 と な れ り
 釦 押 し 降 り る 電 車 や 山 眠 る
 数 へ 日 の 包 丁 並 ぶ 刃 物 店

小 六 月

大 島 英 昭

浚 渫 の あ と の 濁 り や 泡 立 ち 草
文 房 具 店 に ポ ス ト や 秋 の 昼
円 墳 の い た だ き 桜 紅 葉 か な
キ ャ タ ピ ラ の 跡 の ギ ザ ギ ザ 小 六 月
吹 き 溜 ま り ま で か ら こ ろ と 落 葉 か な
折 れ 曲 が り き た る 焚 火 の 煙 か な
家 ご と に 犬 飼 は れ ゐ る 雪 催 ひ
跳 び 箱 の 砂 場 に 置 か れ 寒 の 入
生 徒 よ り 手 紙 来 た れ り 霜 柱
冬 耕 の 人 の ラ ジ オ の 時 報 か な

焚火

きくちきみえ

ぎんなんを転がしている竹箒
雨音の落葉を揺らし始めけり
橋脚に日の斑を流す冬の川
先つちよは風の形に軒氷柱
けん玉をはずす音する冬うらら
襟巻きに埋まつてゆく欠伸かな
甘さうな色の錠剤冬に入る
飛び跳ねて届く高さに蜜柑の実
ドラム缶から火の手が上がる焚火かな
牡蠣鍋の牡蠣より泡の立ちにけり

菊 脛

廣瀬雅男

みちのくは雪と聞く夜の菊脛
新藁を敷く菜園の畑かな
立冬やひと声長く明けの鶏
神主の屈みて祓ふ七五三
浜風や安房の畑の懸大根
背戸道の片側に寄る落葉かな
朝の日の部屋突き抜ける十二月
短日や海鼠のやうに眠る河馬
空つ風風呂屋の煙倒しけり
沈丁花の赤き蕾や路地晴れて

草紅葉

瀬島洒望

ななかまど天文台は頂きに
順延をされし芋掘り幼稚園
陣解きて雁沼へ落ちにけり
目鼻口割り貫かれたる南瓜かな
廃船の甲板に草紅葉かな
吊るし柿雨戸に影を落としたる
ここかしこ柿簾ある甲斐に入る
取り混ぜて駄菓子買ひけり花八手
煤逃げは上野鈴本昼席に
手袋を脱ぎ弁当を広げけり

鵲の賛

白石正躬

庭の木の思はぬところ鵲の賛
蕎麦刈りや陽を背に受くる男どち
強霜や土手を越え来る銃の音
里の子の土手に遊べり冬日和
数へ日にあわてて成田山参り
北風を吸ひて電車を待ちにけり
啄木鳥のゐて雪晴れの朝かな
松過ぎて飯に卵となりにけり
雪もよひもつこりとあるもぐら塚
葱の畦向かふところに赤城山

水道管

丑久保勲

川またぐ水道管や泡立草
辻説法跡とや菊の鉢並べ
幼稚園バスを降りる子鷺のこゑ
菜園の隅でゴミ焼く秋桜
仏殿の屋根は茅葺き秋澄めり
菰巻を結ぶ縄目の路に向き
雪吊を横目にすする汁粉かな
短日や自^く動^る車^まに潜る整備工
ラジコンの音と機影や枯野原
箱根路を来て風花の湖尻かな

雪ぼたる

秋葉貞子

この景色いつか見た道日の短か
胸近く来て引返す雪ぼたる
ミシンの目飛びぐせつきて年の暮
冬すみれ風にも揺れて秩父線
新海苔の香る小包まだとかず
花石露や伯母百歳の葬簡素
風の中さよならの声もがれゆき
のびのびになりし返信十二月
予後の身のつつがなく過ぎ寒の入
柚子風呂を出てしなやかに文字を書く

◇ 3～4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	26日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	水上バス・浜離宮	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月17日(日)の吟行。集合は10時。メトロ地下鉄浅草駅吾妻橋方面改札口。

吟行地：水上バスで浜離宮へ。句会場：森下文化センター・第3会議室。

都営地下鉄大江戸線で汐留駅から森下駅へ移動。徒歩7分。

- ◎ 連絡先
- | | | | |
|-------|----------------|---------|----------------|
| 瀬島 孟 | ☎ 048-862-2757 | 藤井美晴 | ☎ 0422-55-2733 |
| 大島英昭 | ☎ 048-592-5041 | WEP編集室 | ☎ 03-5368-1870 |
| 廣瀬雅男 | ☎ 048-443-7522 | 浦和コミセン | ☎ 048-887-6565 |
| 丑久保 勲 | ☎ 048-853-3856 | WEP俳句教室 | WEP編集室へ |